

都市再生整備計画(第4回変更)

かりやえきしゅうへんちく
刈谷駅周辺地区

あいち かりやし
愛知県 刈谷市

平成19年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	刈谷市	地区名	刈谷駅周辺	面積	107.2 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

目標
 中心市街地における都心機能の整備による賑わいの創出(再生)

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 刈谷市は、地理的には愛知県のほぼ中央に位置し、歴史的には、古くは城下町として商業、農業を中心に繁栄してきましたが、明治21年に東海道本線が開通し、刈谷駅が設置され、大正3年には現名鉄三河線が開通するなど、交通の要衝として発展し、地方商業都市的色彩を濃くしてまいりました。大正末期にはトヨタ系企業の誘致により近代産業都市としての足がかりを得るとともに、積極的な工業化施策を推進してきました。モータリゼーションの進展は、市内工業のめざましい発展と経済基盤を強化する一方で、社会・経済環境に大きな変革をもたらしました。交通の重要な地点として、また工場労働者の消費需要に支えられ、活気を呈してきた中心商業地は、都市基盤の整備の立ち後れから、車社会に十分対応しきれず、商業機能の郊外化や消費者ニーズの変化等が相まって、その機能が低下してきています。

課題
 ・西三河地域の産業・文化・交流(広域生活)拠点形成には、集客性が高く、中心市街地の新しい魅力となる複合機能の整備が不可欠である。そのため、低未利用敷地等の有効活用や再開発を可能とする条件整備が重要である。
 ・拠点地区及びその周辺地区の開発に伴う交通需要に対応するため、道路、歩行者環境など交通機能の強化とバリアフリー化を図る必要がある。
 ・中心市街地における既存商店街の機能強化及び近代化により、商業地としての面的な賑わいと魅力向上を図る必要がある。特に、企業群に隣接する商店街における企業従事者へのサービス提供機能の整備・充実が重要な課題である。
 ・多くの人々が交流する本市の玄関口として、本市のアイデンティティを感じさせる個性的で魅力ある駅前地区の景観を形成する必要がある。

将来ビジョン(中長期)
 駅周辺の低未利用地や空洞化は、本市の都市機能の低下を引き起こしているため、本地区の整備により『第6次刈谷市総合計画』及び『刈谷市中心市街地活性化基本計画』に基本構想として挙げているように、市全体のポテンシャルと中心市街地の求心力を高め、連担する商業・業務・住宅地の整備・活性化を促進します。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅南北連絡通路利用者数の増加	人	連絡通路利用者調査(10時間 H16.5.11 9:00~19:00)	賑わいの創出等により連絡通路利用者の増加を図る。	19,464人	平成16年度	20,400人	平成20年度
商業床(のべ床面積)の増加	m ²	都市計画基礎調査データ H15	再開発事業等により誘発し商業床の増加を図る。	101,000m ²	平成15年度	121,000m ²	平成20年度
定住人口の増加	人	住民基本台帳 H16.1.1	公営住宅整備、再開発事業による定住人口の増加を図る。	4,714人	平成15年度	5,000人	平成20年度
放置自転車数の減少	台	放置自転車実態調査 H15	駐輪場整備により放置自転車の減少を図る。	898台	平成15年度	500台	平成20年度
快適な歩行者エリアの確保	人	交通量調査(歩行者・自転車 H16.5.11 12時間 7:00~19:00)	駐輪場整備によって放置自転車の減少を図り、快適な歩行者エリアを確保する。	1,440人	平成16年度	2,160人	平成20年度
高須線のバリアフリー化の向上	%	『重点整備地区における移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準』によるバリアフリー化率 H16.5	高須線街路新設改良事業によりバリアフリー化率の向上を図る。	33.9%	平成16年度	100%	平成20年度
交通児童遊園の利用者数の増加	人/年	年平均利用者調査 (H8~H15)	交通児童遊園の改修工事により利用者数の増加を図る。	736,000人/年	平成16年度	883,000人/年	平成20年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・刈谷駅南地区再開発により建設される市民ホール、生涯学習センター、商業施設、駅前広場等及び刈谷市交通児童遊園の整備により、集客性が高く、賑わいのある中心市街地の魅力となる機能を整備し、新しい都市空間の形成を図る。</p>	<p>・公益施設保留床取得事業(地域交流センター) ・刈谷駅南地区第一種市街地再開発事業 ・刈谷市交通児童遊園施設整備事業 ・刈谷市中心市街地活性化推進事業</p>
<p>・刈谷駅周辺の道路整備を行うことにより、新たに発生する交通需要に対応すると共に歩行者環境を向上させ、全般的な交通機能の強化とバリアフリー化を図る。</p>	<p>・都市計画道路高須線街路新設改良事業 ・刈谷駅南北連絡通路整備事業 ・刈谷駅南地区第一種市街地再開発事業 ・刈谷駅南北連絡道路</p>
<p>・自転車駐輪場を整備し、刈谷駅周辺の放置自転車を減少させ、歩行者空間や景観の阻害を解消させると共に新たな駐輪需要の増加に備える。</p>	<p>・刈谷駅北口駐輪場整備事業 ・刈谷駅南口駐輪場整備事業</p>
<p>・駅周辺の利便性を最大限に享受できる都市型住宅を整備し、都心居住の拡充を図る。</p>	<p>・住吉住宅建替事業 ・刈谷駅南地区第一種市街地再開発事業</p>

その他

本都市再生整備計画は、中心市街地の都市機能の分散化に伴い地域の平準化が進み都市イメージが希薄となっている課題を改善し、多様な人々が交流できる魅力的で都市のアイデンティティを感じさせる本市の玄関口となる地区を形成するため、市民と共に新たな都市機能の整備をめざすもので、整備地区は刈谷駅を中心とする概ね歩行距離圏域(約500m)である本刈谷駅周辺地区を位置付けるものです。また、刈谷駅周辺地区はJRと名鉄の刈谷駅での総乗降客数が5万人/日を超える市のターミナル拠点として、多くの市民、通勤・通学者、来街者が集まる場所でもあります。現在これらの通過するだけの多くの人々もこの整備計画により引きつけ街の賑わいを創出し、更なる商業、業務、サービス、都心住宅施設を誘発し都市機能の集積をはかり都市の顔となる中心拠点の形成を図るものです。

そうした中でまちづくりの目標の達成に向けて、交付期間中の計画管理として随時数値目標達成状況等のアンケート調査等を行っていきます。

刈谷駅周辺地区(愛知県刈谷市) 整備方針概要図

目標	中心市街地における都心機能の整備による賑わいの創出(再生)	代表的な指標	駅南北連絡通路利用者数 (人)	19,464 (H16年度)	→	20,400 (H20年度)
			定住人口 (人)	4,714 (H16年度)	→	5,000 (H20年度)
			快適な歩行エリアの確保 (人)	1,440 (H16年度)	→	2,160 (H20年度)

